

エムズ・デーリィ・ラボ便り

「大腸菌性とクレブシエラ性乳房炎の違い」

春をむかえ暖かくなってくると大腸菌やクレブシエラが原因の急性乳房炎の発症が多くなってきます。これらの菌は大腸菌群に属します。大腸菌は動物の消化管の常在菌であり、クレブシエラは土壌、穀類、樹木、水、動物の腸管に生息しています。特にクレブシエラは敷料としてのオガクズ中に生息している可能性が多いので、敷料に使用する敷料中の細菌検査（ベディングカルチャー）を実施するなど注意が必要です。

大腸菌やクレブシエラの乳房炎は80～90%が急性の臨床型乳房炎であり、そのうちの10%は非常に重篤な甚急性乳房炎を発症し、死亡や廃用になるケースもあります。

同じ大腸菌群に属しますが、大腸菌とクレブシエラでは乳房炎症状は大きく異なりますので、注意が必要です。図は大腸菌とクレブシエラの乳房炎発症牛の泌乳量の変化を健康牛と比較したものです。大腸菌とクレブシエラの乳房炎では、両者とも発症後に急激に泌乳量が減少していますが、その後の回復を見ると、大腸菌の場合は順調に回復し健康牛レベルに戻っています。しかし、クレブシエラの場合は一時的には回復傾向は示しましたが、結果的には泌乳量は低下してしまっています。

この様に同じ大腸菌群でも大腸菌とクレブシエラの乳房炎はまったく異なった症状を呈することを理解し、原因菌をしっかりとモニタリングして治療することが重要です。

